

平成22年度

全国学力・学習状況調査の結果を活用した 調査研究に係る成果報告会



平成22年度 滋賀県「確かな学力向上プラン」について

課題

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から

小学校国語

- ・自分の立場や意図を明確にして話し合うこと。
- ・目的に応じて、情報を読みとり、それを根拠に自分の考えを条件に即して書くこと。

小学校算数

- ・解決方法を図形の性質を基に考えたり、記述したりすること。

中学校国語

- ・文章から必要な情報を読み取り、自分の考えを簡潔にまとめて書くこと。

中学校数学

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

生活状況

家庭学習で復習をしている割合やテストの間違った問題を後で勉強する割合が少ない。

確かな学力向上に向けての学校改善・授業改善(指導内容・指導方法の改善)

言語活動の充実

- ポイント① 国語科において、言語活動の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらの力を活用して、思考力、判断力、表現力を高める。
- ポイント② 各教科等においても、言語活動の充実を図り、当該教科の学習のねらいを効果的に達成する。

指導方法の工夫改善

- ポイント③ 各教科等において学校図書館を活用するなどの指導の展開を図り、児童生徒の読解力、情報収集・活用能力等を育む。
- ポイント④ 小・中・高の学習内容の系統を見通した効果的な学習指導方法の改善を図る。
- ポイント⑤ 児童生徒相互の学び合いや学習規律の確立等、学習集団を高める取組を推進する。

家庭との連携充実

- ポイント⑥ 家庭学習の方法や内容、保護者との連携の仕方等、授業と家庭学習をつなぐ取組を推進する。

確かな学力向上に係る調査研究等の支援体制について

滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会 (確かな学力の育成に係る実践的調査研究支援委員会)

①新学習指導要領の円滑な実施に向けた教材開発、指導方法等についての調査研究

①-1 学力向上実践研究
(長浜市立高月中学校区)

①-2 学力向上実践研究
(県立河瀬高等学校)

②全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究 (湖南市)

③学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究 (湖南市)

④小・中連携教育実践研究 (国立教育政策研究所事業) (彦根市)

⑤言語力アップ推進事業 (県事業)
(大津市,長浜市,彦根市,甲賀市,豊郷町多賀町)

市町教育委員会・各学校

連携

[役割]

○各調査研究等の情報共有

○取組事例の検証

○指導主事等の指導助言
(研究構想・指導案、実践への指導助言)

○調査研究等による支援
(児童生徒の学習状況等の調査支援)

○研究研修体制等の支援
(大学教授、学習指導支援員等の派遣)

○研究成果の普及

支援

普及

連携した取組

学校教育課・総合教育センター

県内・全国への成果普及

各事業の概要について1

①新学習指導要領の円滑な実施に向けた教材開発、指導方法等についての調査研究 (学力向上実践研究)

○学力向上を図るための方策について、実践研究を行うとともに、新学習指導要領の円滑な実施を図るための取組を行う。

- ・指導体制の工夫による小・中連携の推進(長浜市)
- ・「個に応じた指導」等の指導方法の改善(県立河瀬高等学校)

②全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究

○全国学力・学習状況調査の結果等から、地域的に解決を求められている課題や個々の学校のみでは解決が難しい課題等についての改善を図る。

- ・児童生徒が主体となる授業の構築
- ・学習時間や家庭学習の質と量の向上

③学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究

○各教科等における学校図書館を活用した指導の多面的な展開により、児童生徒の読解力・言語力、情報の収集・活用能力等を育むとともに、主体的に学ぶ技能や意欲・態度を養う

- ・学校図書館を有効利用した授業改善
- ・学校図書館支援センターの機能の充実

各事業の概要について2

④小・中連携教育実践研究（国立教育政策研究所事業）

○教科等における小・中学校9年間の学習内容の系統を見通して行う小・中連携した学習指導の在り方や、その効果を高めるための教育活動等について、実践的な研究を行う。

・特別活動（「学級活動」）において、9年間を見通したカリキュラムを構築

⑤言語力アップ推進事業（県事業）

○学校の課題に即した授業改善として言語活動の充実に取り組み、児童生徒の学習意欲や思考力、判断力、表現力の向上に結びつく具体的な取組により言語力の向上を図る。

・国語科での言語力アップを行う授業改善 ・各教科等での言語力アップを行う授業実践

推進地域の取組の体制について

全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究
(学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究)



家庭・地域

- ・児童生徒の主体的な取組による学習規律の定着
- ・授業改善と日常の取組の両輪による研究体制
- ・家庭や地域との連携による家庭学習等の習慣作り
- ・中学校ブロックでの連携体制の取組

推進校

湖南省

- ・学校図書館支援センター事業による協力員の配置し、学校図書館の活性化を図る取組
- ・学校図書館活用のための体系表を作成し、児童生徒の発達段階に併せて図書資料等の情報源の活用方法を指導する取組
- ・市内各校の研究主任を中心に、授業改善等の研究推進についての連携と支援
- ・市内各校の教務主任を中心に、学習規律の確立と家庭学習の定着についての連携と支援
- ・「学校支援地域本部」事業、「コミュニティ・スクール」の推進
 - 地域の退職教職員、学生、地域等のボランティアによる地域主体の「土曜教室」の開催
 - 地域の学習支援ボランティアによる学習に参加しにくい子どもへの支援とその研修の実施
 - 学校図書館支援ボランティアによる、学校図書館の環境整備、学習等の支援

県教育委員会

- ・県指導主事等による推進校への学校訪問(計22回)
- ・大学教授等による推進校への指導・助言
- ・推進地域での学校改善研究協議会による取組の連携と支援

取組の内容について

全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究
(学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究)

詳細は、後ほど
紹介します。



推進校の取組

- ・児童生徒が主体となる授業の構築
 - 課題解決の力を身に付けるための学校図書館を活用した授業
 - 「伝え合う力」をキーワードとした児童生徒の思考の流れを大切にした授業
 - 「書く活動」に焦点をあてた授業
 - 学び方を学ぶ場としての学校図書館の利用指導の充実
- ・学習時間や家庭学習の質と量の向上
 - 家庭、地域と連携した学習習慣の定着
 - 授業規律の確立(学習集団づくり)
 - 放課後を利用した基礎的な学習の定着



推進地域・湖南省の取組の内容について

湖南省の取組

- ・学校図書館支援センター事業による協力員の配置
学校図書館支援スタッフを湖南省教育委員会に、小中学校に学校図書館協力員を配置
授業で活用する図書資料の収集や公共図書館との図書流通等を実施
- ・学校図書館活用のための指導体系表の作成
図書資料等の情報源の活用に必要な技能の習得を図る体系表の作成。
- ・家庭学習が積み上がりにくい子どもたちへの地域支援「土曜教室」の開催
地域の退職教職員、学生、地域ボランティアによる学習支援
- ・学習に参加しにくい子どもたちへの学習支援
担任と地域ボランティアの協働による個別支援とボランティアの研修を推進
- ・学校図書館支援ボランティアによる学校図書館の機能を有効活用
学校図書館の環境整備、読み聞かせ、図書資料の活用の推進
学校図書館支援ボランティアの交流研修会を実施

推進校・湖南省立下田小学校の取組

全国学力・学習状況調査等の結果分析から①

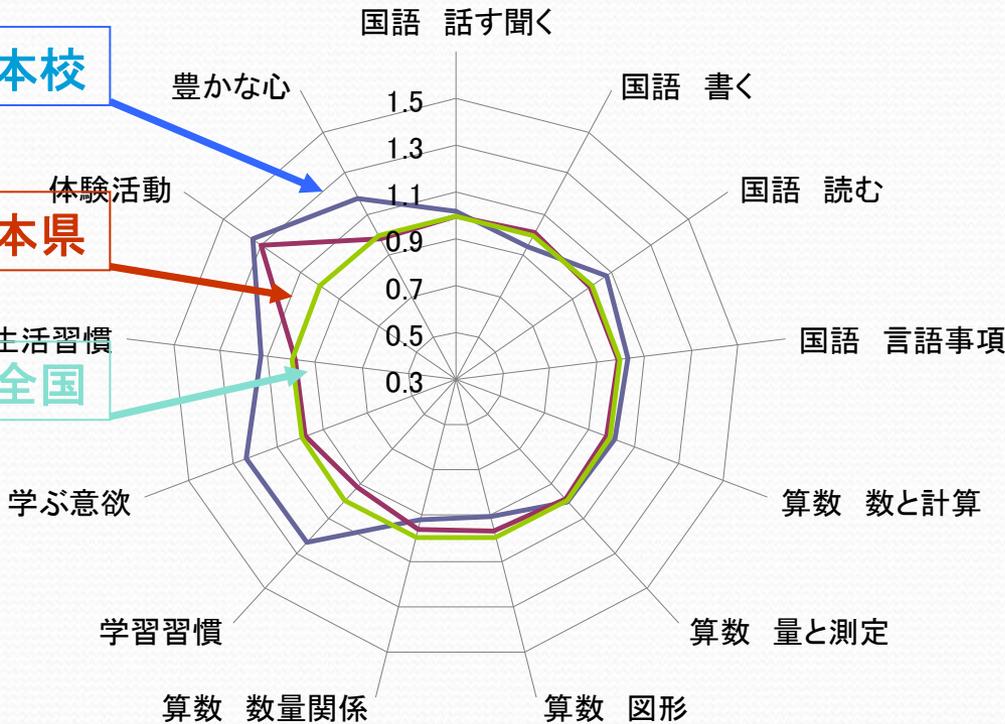
スクールコンパスを活用し分析した学校全体の傾向
おおむね良好な結果である

**課題は算数
 図形・数量関係**

青：本校

赤：本県

緑：全国



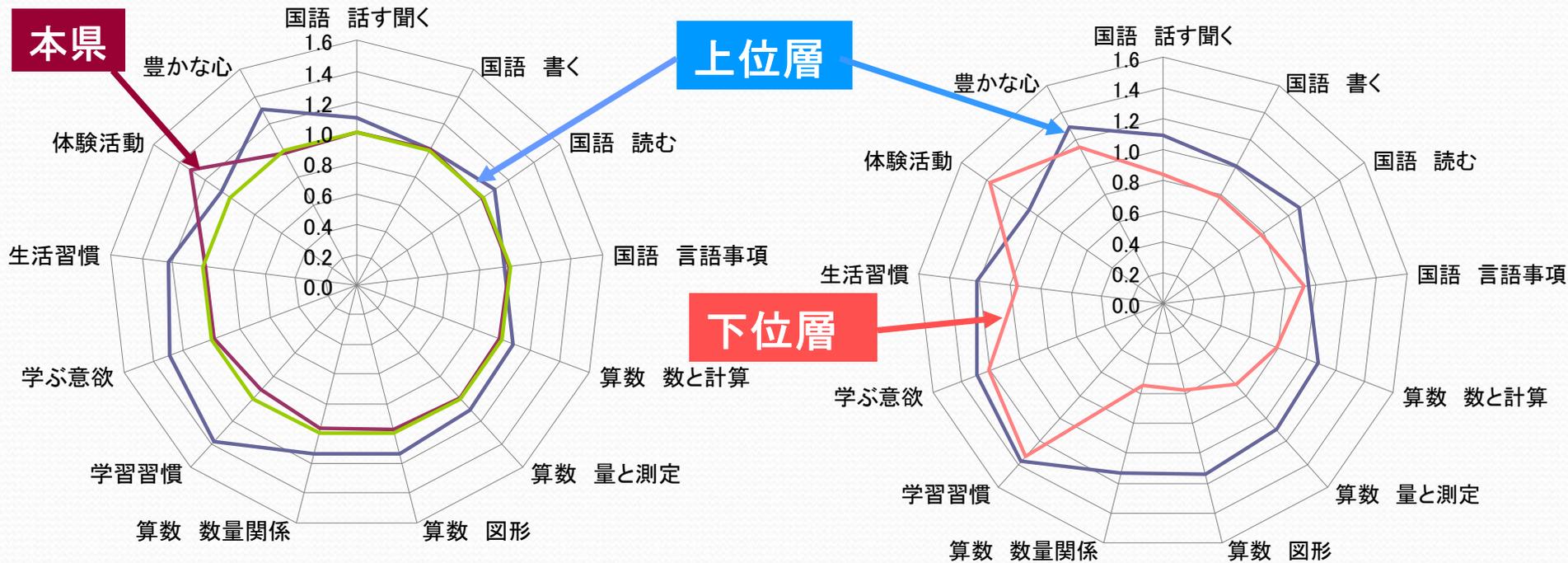
強みは、学習習慣・学ぶ意欲・体験活動

②学校の「強み」と「弱み」

		本校	滋賀県	全国との差	県との差
13	弱み 1 算数 図形	0.90	0.97	-0.10	-0.07
12	2 算数 数量関係	0.92	0.97	-0.08	-0.05
11	3 国語 書く	0.94	1.01	-0.06	-0.07
10	4 算数 量と測定	1.01	0.99	0.01	0.02
9	5 算数 数と計算	1.01	0.98	0.01	0.03
8	国語 話す聞く	1.02	1.00	0.02	0.02
7	国語 言語事項	1.03	0.99	0.03	0.04
6	国語 読む	1.07	0.99	0.07	0.08
5	5 生活習慣	1.13	0.99	0.13	0.14
4	4 豊かな心	1.18	0.97	0.18	0.20
3	3 学習習慣	1.24	0.92	0.24	0.32
2	2 学ぶ意欲	1.25	0.98	0.25	0.27
1	強み 1 体験活動	1.34	1.30	0.34	0.04

全国学力・学習状況調査等の結果分析から②

スクールコンパスを活用し分析した学力上位層・下位層別の傾向



上位層・本県・全国の比較

上位層・下位層の比較

- 国語は、算数に比べ上位層・下位層の差小さい。特に言語事項は差が比較的小さい。
- 読む力に課題のある児童は、書く力にも課題がある。
- 図形・数量関係で「～を説明する」「～考えを述べよ」等関係性を表現することが課題である。
- 家庭学習の充実が下位層の児童の学力向上につながる。

確かな学力の育成を目指して

【めざす子どもの姿】

自分の考えを持ち、生きてはたらくことばの力を持つ子

読書活動の
充実

国語科の
授業改善

日常の全校的な
言語活動・言語
環境の充実

授業改善の充実の柱

身につけさせたい力を意識した授業改善

学校図書館を活用した授業



学習課題
の設定

話し方・聞き方
マニュアル

単元構成の
改善

教材研究

発問の
工夫

板書計画

3年生の実践(木かげでごろり)より

【めざす子どもの姿】

- ・世界の民話を読み、民話のおもしろさに気づくことができる。
- ・民話のおもしろさが伝わるように、書きたいことの中心点をはっきりさせてまとめることができる。

複数の民話の中から「おもしろかった」所を発表する。

繰り返しの言葉がでてきた！こんな言葉があったよ！

1次で見つけた「おもしろさの視点」を元に教科書を読む。

教科書にも同じおもしろさがあった！

民話の紹介カードを書く。

教科書での学びを生かし、見つけて書こう！

2年生の実践(ビーバーの大工事)より

【めざす子どもの姿】

- 本を読んで、大事な言葉や文をさがしながら読むことができる。
- 本や文章を読んで感想をまとめることができる。

複数の動物に関する本から「なぜ？」を見つけ、クイズを作る。

教科書教材で、大事な言葉や文のさがしかたを学ぶ

一次のクイズの答えや説明を書き、クイズ大会をする。

並行読書・交流ボードで答え見つけ(オコタエ付箋活用)

題名や目次を使って調べる方法を教える。

“知りたいことに関係のある言葉”“主語、述語”、“～のために”なのかを考えて読む。

ボードを使っての意見交流



複数の本から答えや
説明を探す児童



授業の中で交流

児童のカード

わたしは、さつぎさんのいけんを聞いて、小さい手でもいはい木をはこべるんだなあと思いました。

わたしは、いろいろなエうつをして作っているなあと思いましたが、なぜかと言うと、そんなに時間をとらないと思いたのは、

ビバーが五、十五分間も水の中にもぐるダムを作り、川の水をせきとめ、その中にてきにおそろえないためです。あんせんなすを作る

十一月八日
 ビバーの大工事
 ビバーのつくいあごの
 よるまどを見つナよう。